

「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」の具体化について

- I 各エリアの優先順位とグルーピング
 - 1 各エリアの優先順位
 - 2 優先順位別のエリア分類
 - 3 優先的に検討するエリアとそのグループ

- II 優先検討グループ・エリアの現況・問題点及び基本的な方向性

- III 優先検討グループ・エリアの検討事項、対応策等

「知床半島中央部地区利用適正化基本計画」の具体化について

「中央部地区基本計画」の具体化に向けて、優先的に検討を進めるエリアの抽出とグルーピング及び検討課題・問題点等の整理を行い、「利用適正化実施計画」の策定を進めるための検討事項・対応策等を整理するものである。

I 各エリアの優先順位とグルーピング

各エリアの現況・課題等を踏まえ、検討の優先順位と関連するエリアのグルーピングを行う。

＜優先順位の位置付け＞

- A+： 対策の必要性・緊急性が最も高く、最優先に具体化を図る必要性があるエリア
- A： 対策の必要性・緊急性が高く、優先的に具体化を図る必要性があるエリア
- B： 対策の必要性があり、具体化を図る必要性があるエリア
- C： 当面对策を取る必要性が低いエリア

1 各エリアの優先順位

地域		番号	エリア区分	順位	
第Ⅰ地域 (知床連山地域)	登山道沿線	1	岩尾別温泉～羅臼岳	A	
		2	羅臼温泉～羅臼岳	B	
		3	カムイワッカ～硫黄山	B	
		4	知床連山縦走線	A+	
	登山道以外	5	登山道以外	C	
第Ⅱ地域 (幌別・知床五湖 ・カムイワッカ ・羅臼湖・知床 横断道路沿線地域)	ホロベツ 岩尾別 知床五湖	6	ホロベツ園地	B	
		7	幌別川・岩尾別川	B	
		8	車道沿線(横断道～五湖)	A	
		9	町道岩尾別温泉道路	B	
		10	ホロベツ・岩尾別台地	C	
		11	知床五湖園地	A+	
		12	知床五湖歩道	A+	
		カムイワッカ	13	カムイワッカ	A+
			14	車道沿線(五湖以奥)	B
			15	五湖以奥森林	C
	羅臼湖 知床横断道路 沿線	16	知床横断道路	B	
		17	自然観察教育林	C	
		18	羅臼湖	A+	
		19	羅臼温泉集団施設地区	B	
20		熊越の滝	B		
第Ⅲ地域 (知西別岳及びその周辺地域)	21	知西別岳一帯	C		
	22	その他森林等	C		
第Ⅳ地域 (ルサ～相泊間の道路沿線地域)	23	車道沿線(ルサ～相泊)	B		
	24	ルサ野営場計画地	B		
	25	河口部(ルサ・オシヨロッコ・相泊)	C		

2 優先順位別のエリア分類

優先順位 A (*はA+)	優先順位 B	優先順位 C
1 岩尾別温泉～羅臼岳 4 知床連山縦走線* 8 車道沿線 (横断道～五湖) 11 知床五湖園地 * 12 知床五湖歩道 * 13 カムイワッカ * 18 羅臼湖 *	2 羅臼温泉～羅臼岳 3 カムイワッカ～硫黄山 6 ホロベツ園地 7 幌別川・岩尾別川 9 町道岩尾別温泉道路 14 車道沿線 (五湖以奥) 16 知床横断道路 19 羅臼温泉集団施設地区 20 熊越の滝 23 車道沿線 (ルサ～相泊) 24 ルサ野営場計画地	5 登山道以外 10 ホロベツ・岩尾別台地 (海崖周辺) 15 五湖以奥森林 17 自然観察教育林 21 知西別岳一帯 22 その他森林等 25 河口部 (ルサ・オシヨロッコ・相泊)

3 優先的に検討するエリアとそのグループ

来年度以降、優先的に検討するエリア (検討エリア A+) と関連するエリア (関連エリア) のグルーピングを以下のようにする。

グループ	検討エリア	関連エリア
ア	11 知床五湖園地 (A+) 12 知床五湖歩道 (A+)	6 ホロベツ園地 (B) 8 車道沿線 (横断道～五湖) (A)
イ	13 カムイワッカ (A+)	(6 ホロベツ園地 (B)) (8 車道沿線 (横断道～五湖) (A)) 14 車道沿線 (五湖以奥) (B)
ウ	18 羅臼湖 (A+)	16 知床横断道路 (B) 19 羅臼温泉集団施設地区 (B) 20 熊越の滝 (B)
エ	4 知床連山縦走線 (A+)	1 岩尾別温泉～羅臼岳 (A) 2 羅臼温泉～羅臼岳 (B) 3 カムイワッカ～硫黄山 (B) 9 町道岩尾別温泉道路 (B)

Ⅱ 優先検討グループ・エリアの現況・問題点及び基本的な方向性

優先的に検討する4グループ（5エリア及び関連8エリア）において「中央部地区基本計画」に記述されている、現況・問題点及び基本的な方向性は以下のように整理される。

グループ：ア【知床五湖園地・歩道】、[ホロベツ園地]、[車道沿線（横断道～五湖）]

1 現況及び問題点

- ・ 知床五湖地域における一般観光利用（年間約50万人）の夏期利用者集中による、車両の渋滞や利用の混雑。
- ・ 五湖歩道におけるガイドによる引率利用の増加
- ・ 冬期間のスキー利用による、希少鳥類生息（繁殖）環境等への影響。
- ・ 車道沿線における夜の星空や動物観察プログラムの過密化。
- ・ 動物への餌やり等。
- ・ ヒグマ対策に関する体制の充実、生息地における利用システムの確立、これらにかかる管理コストの確保。

2 各エリアの方向性、検討課題及び取り扱い方針

【知床五湖園地】（自然体験タイプ：D、基本的方向性：イー2）

(1) 基本的な方向性

現状のタイプを保持するが、混雑緩和、情報提供・普及啓発等の機能整備を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
①利用拠点としての整備	知床の中心的利用拠点として、知床五湖が担っている地域の観光産業の維持及び一般利用者の安全性向上と安定的な利用の提供を図る。
②利用環境の質的向上	混雑期間における駐車場入口や便所の渋滞緩和対策、及び情報提供、普及・啓発、レクチャー等の機能（ミニビジター）の整備の検討を行う。

【知床五湖歩道】（自然体験タイプ：B-①、基本的方向性：ロー1）

(1) 基本的な方向性

利用環境の質的向上を図るため、利用のコントロールを検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
利用のコントロール手法	五湖本来の原生的な自然の持続的な保全、及び国立公園ならではの質の高い自然とのふれあい・公園利用サービスの提供を図る。 一定の「利用ルール」の下でのコントロールされた利用の検討。なお、コントロール手法（法的・非法的ルール等）、及びガイドシステム、安全管理等の手法については関係機関、関係団体等と連携・協力して検討を行う。

[**ホロベツ園地**] (自然体験タイプ：C-②、基本的方向性：イー3)

(1) 基本的な方向性

現状のタイプを保持し、情報提供機能の充実と五湖の利用分散等の新たなフィールドの開発を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
①公園管理拠点機能の充実	ウトロ地域との機能連携・役割分担を整理し、「知床自然センター」における情報提供、普及・啓発機能の充実、運営・体制等の充実再整備等の検討を行う。
②利用の分散・新たな魅力有るフィールド開発	知床五湖の利用集中を緩和させることや、より知床の魅力を利用者に味わってもらい、知床を次世代に引き継ぐことの重要性を理解してもらうために、自然環境の保全上支障を及ぼすことのない範囲で、ホロベツ・岩尾別における無施設のガイドルートの設定やソフト事業としてのガイドウオーク等適正な利用への誘導を検討する。
③しれとこ 100 平方メートル運動地	斜里町において現在検討中のトラスト資産としての運動地の公開の是非やその手法に関する検討結果に従った管理を行う。

[**車道沿線（横断道～五湖）**] (自然体験タイプ：D、基本的方向性：イー2)

(1) 基本的な方向性

現状のタイプを保持するが、渋滞やヒグマ対策も考慮し、自動車利用適正化等を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
①望ましい交通システム	利用の集中による利用の質の低下や自然環境への影響が懸念され、さらに、ホロベツから五湖に至る道道沿いはヒグマの出没による安全対策も課題となっていることから、望ましい交通システム（自動車利用適正化対策）の導入について関係機関、関係団体等と連携・協力して検討を行う。
②夜間の利用対策	夜間の静寂な雰囲気を維持・改善するため、利用のルール作りについて関係団体等と連携・協力しての検討を行う。

グループ：イ【カムイワッカ】、[車道沿線（五湖以奥）]
 (6 ホロベツ園地) (8 車道沿線（横断道～五湖）)

1 現況及び問題点

- ・ 夏期に利用者が集中し、車両の渋滞や利用の混雑により秘湯・秘境のイメージの消失。
- ・ 安全利用（事故防止、ヒグマ対策）の確立。
- ・ 立ち売り及びトイレ対策。
- ・ ホロベツは斜里側の国立公園入口部分に位置し、情報発信及び管理・調査の中心的な施設として「知床自然センター」がある。

2 各エリアの方向性、検討課題及び取り扱い方針

【カムイワッカ】（自然体験タイプ：B-①、基本的方向性：ロー1）

(1) 基本的な方向性

情報提供等による利用の集中緩和や安全対策等利用ルールを検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
①利用ルール	「利用ルール」づくりとその普及・啓発及び事前に自然や安全・危険等に関する情報を提供するシステムの確立と管理・巡視体制の充実を図る。 利用者の安全対策、立ち売り対策、トイレ対策等管理・巡視体制の充実を図る。 湯の滝までのルート状況（険しさ、滑りやすさ等）や周辺の落石の危険性、救護に要する時間や強酸性による皮膚の炎症等について情報提供の充実を図る。
②フィールドハウス機能	ルシャ地区への立入監視ゲート機能、カムイワッカ地区利用者への指導、硫黄山登山者への普及・啓発等の機能を果たす「フィールドハウス機能」及びその運営体制の検討を行う。
③利用環境の質的向上	秘境感を減退させるような工作物の新築は避け、既存工作物についても改良の際には、景観への配慮の検討を行う。

【車道沿線（五湖以奥）】（自然体験タイプ：C-①、基本的方向性：ロー1）

(1) 基本的な方向性

自動車利用適正化の充実化等を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
望ましい交通システム	カムイワッカ地区での「自動車利用適正化対策」の継続・強化（期間延長・運行回数等の調整）、及びホロボツ以奥における望ましい交通システムの検討を行うことにより、利用の集中を緩和させ、一般的な利用者が適正な状況で知床への到達感・秘境感を味わうことができる場所とする。

グループ：ウ【羅臼湖】、[知床横断道路]、[羅臼温泉集団施設地区]、[熊越の滝]

1 現況及び問題点

- ・ 羅臼湖の利用者は年間約5千人で、増加の傾向にある。また、春先にスキー利用が見られる。
- ・ 羅臼湖の入り込み増加に伴う歩道の拡幅及び帰化植物の侵入が懸念される。
- ・ 横断道路は、通過利用を原則とし、道路付帯駐車場の新設や既存の拡張整備は原則として認められていない。
- ・ 歩道入口（羅臼湖・熊越の滝）における知床横断道路での路傍駐車問題。
- ・ 羅臼温泉集団施設地区におけるビジターセンター再整備計画

2 各エリアの方向性、検討課題及び取り扱い方針

【 羅臼湖 】（自然体験タイプ：B-①、基本的方向性：ロー1）

(1) 基本的な方向性

利用の集中を避けるための措置を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
①利用のコントロール手法	近年、利用者が急激に増加しており、今後当該地の自然環境や体験の質に悪影響を及ぼすおそれがあることから、必要に応じて一定の「利用ルール」の下でのコントロールされた利用の検討を行う。また、より質の高い自然体験を得ることができるガイドシステムについても検討を行う。
②歩道の取扱	羅臼湖歩道は、既存施設の破損箇所等の修復及び沿線の植生保護のために必要な整備や立入防止ロープ柵等により保護管理を行う。
③アクセス手法等	羅臼湖歩道入口へのアクセス手法としてシャトルバス等の導入（羅臼温泉～知床峠～ホロベツ～ウトロ）と併せて専用停車帯等利用の安全対策及び横断道路での違法駐車対策、入口表示の手法等について検討を行う。

【 知床横断道路 】（自然体験タイプ：D、基本的方向性：イー2）

(1) 基本的な方向性

現状のタイプを保持するが、利用ルールを検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
利用ルール	利用者による野生動物への餌やり等、野生動物の生態への悪影響を防ぐための「利用ルール」づくりとその普及・啓発を行う。

【 羅臼温泉集団施設地区 】（自然体験タイプ：D、基本的方向性：イー3）

(1) 基本的な方向性

自然環境の維持及び利用環境の改善を図り、利用の適正化を推進する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
①適正な利用基地	羅臼側の国立公園入口の利用拠点として相応しい地域環境づくりと、自然環境に応じた適正な利用基地としての充実整備を図る。
②ビジターセンターの再整備	地域の事業者、団体等との連携・協力の下に、幅広い情報提供や保全意識等の普及・啓発を促進するための中心的な施設としてのビジターセンターの整備（新設）を進める。 新設ビジターセンターは、知床半島先端部地区の利用適正化推進の拠点施設としても位置付けられ、先端部地区利用者への情報提供や事前レクチャーのための機能の整備充実を図るものとする。

【熊越の滝】（自然体験タイプ：C-①、基本的方向性：ロー2）

(1) 基本的な方向性

アクセス手法や歩道の維持・補修等を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
①アクセス手法	歩道入口へのアクセス手法としてシャトルバス等の導入により、安全な利用手法等の検討を行う。
②歩道の再整備	既存歩道について、必要に応じ維持・補修等の検討を行い、自然景観の探勝・観賞の場とする。

グループ：エ【知床連山縦走線】、[岩尾別温泉～羅臼岳]、「羅臼温泉～羅臼岳」
[カムイワッカ～硫黄山]、「町道岩尾別温泉道路」

1 現況及び問題点

- ・ 利用者の集中による利用環境の悪化
- ・ 登山道の荒廃・複線化、周辺植生の荒廃、野営地の裸地化の進行
- ・ 尿尿処理対策
- ・ 登山者の安全対策（ヒグマ対策、遭難事故対策等）
- ・ 町道岩尾別温泉道路における路上駐車問題

2 各エリアの方向性、検討課題及び取り扱い方針

【知床連山縦走線】（自然体験タイプ：B-①、基本的方向性：イー2）

(1) 基本的な方向性

（登山利用の想定）行程が長く時間と体力を要するコースで、必要な経験と技術を持ち、ワイルドで静寂な雰囲気での登山体験を目的とした登山者（上級）の利用を想定する。

現状のタイプを保持し、植生への影響の緩和措置を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
維持補修等 登山道の管理のあり方	登山道沿線の植生保護のための措置及び登山道の浸食等の発生・拡大を防ぐため、最小限の修復整備を行う。 二つ池周辺については、登山道の荒廃や野営地の裸地拡大防止のために、ルートや野営指定地の変更も検討する。

【岩尾別温泉～羅臼岳】（自然体験タイプ：B-①、基本的方向性：ロー1）

(1) 基本的な方向性

（登山利用の想定）連山登山道のうち最も利用されているルートである。利用者は、登山経験があり、必要な装備の判断ができ、自らの経験・技術に合わせて、知床の自然景観を楽しむことや、羅臼岳登頂の満足感・達成感を得ることを目的とした登山者（中級及び中級以上の指導者が同伴する初級者）の利用を想定する。

登山利用の適正化のために、登山口の利用と合わせて利用ルールを検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
維持補修等 登山道の管理のあり方	既存施設の破損箇所等の修復、登山道の浸食等の発生・拡大を防ぐための修復整備及び登山道沿線の植生保護のための立入防止ロープ柵の設置等の維持管理を行う。

[羅臼温泉～羅臼岳] (自然体験タイプ：B-①、基本的方向性：イ-3)

(1) 基本的な方向性

(登山利用の想定) 比較的行程が長く利用度が低いルートであることから、十分な体力と登山経験があり、必要な装備等の判断ができ、自らの経験・技術に合わせて、知床の原始的な雰囲気を経験し、羅臼岳登頂の満足感・達成感を得ることを目的とした登山者(中級以上)の利用を想定する。

岩尾別～羅臼岳コースへの利用集中の緩和及び分散化のために、本コースの利用の推進を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
維持補修等 登山道の管理のあり方	登山道沿線の植生保護のための措置及び登山道の浸食等の発生・拡大を防ぐための最小限の修復整備を行う。

[カムイワッカ～硫黄山] (自然体験タイプ：B-①、基本的方向性：イ-1)

(1) 基本的な方向性

(登山利用の想定) 比較的利用度が低いルートであることから、登山経験があり、必要な装備等の判断ができ、自らの経験・技術に合わせて、知床の原始的な雰囲気を経験し、硫黄山登頂の満足感・達成感を得ることを目的とした登山者(中級以上)の利用を想定する。

現状のタイプを保持し、必要に応じて利用ルールを検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
維持補修等 登山道の管理のあり方	登山道沿線の植生保護のための措置及び登山道の浸食等の発生・拡大を防ぐための最小限の修復整備を行う。

[町道岩尾別温泉道路] (自然体験タイプ：D、基本的方向性：イ-2)

(1) 基本的な方向性

現状のタイプを保持するが、渋滞やヒグマ対策も考慮し、自動車利用適正化等を検討する。

(2) 検討課題及び取り扱い方針

検討課題	基本計画における取り扱い方針
望ましい交通システム	夏期の登山シーズンには、町道岩尾別線の路上駐車車両による混雑は恒常的となっている。また、特に岩尾別川へのサケ・マスの上旬にはヒグマの出没による安全対策も課題となっていることから、望ましい交通システムについての検討を行う。

参考)

自然体験タイプ

- B : 原始的な自然環境が保たれており、最小限の利用施設が整備されている。
- ① : 利用密度は比較的高い。
- C : 自然環境が保たれており、未舗装車道等が整備され一般利用が行われている。
- ① : 利用密度は比較的低い
 - ② : 利用密度は比較的高い
- D : 原始性は低く、舗装車道や利用施設が多く整備されており、利用密度は比較的高い。

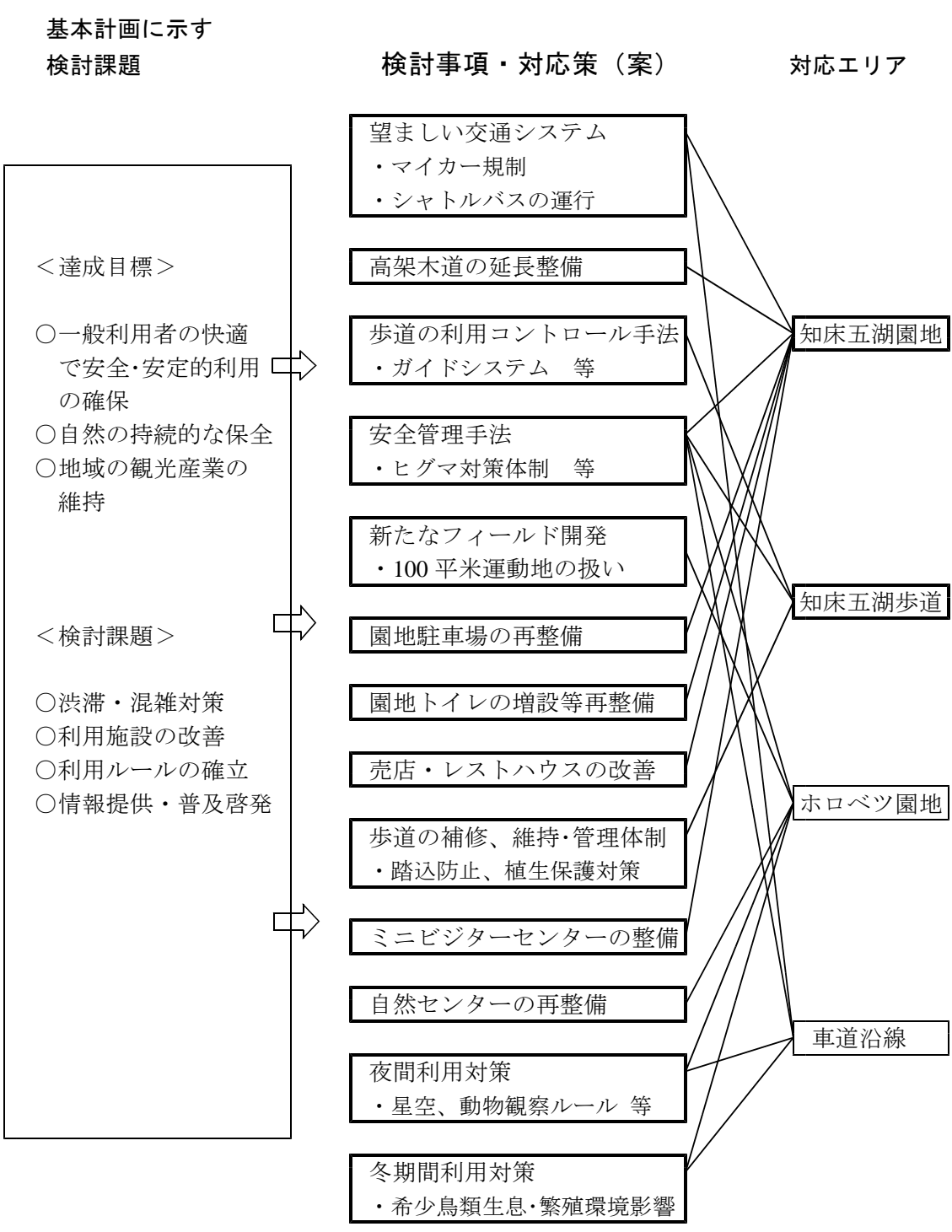
基本的方向性

- イ : 現状の「自然体験タイプ」と理想の「自然体験タイプ」との間だに差異がない。
- 1 : 現状のままで問題のないもの。
 - 2 : 利用の集中や利用方法等に課題がある、或いはその兆候が見えており、現状の維持または改善のための措置を講じる必要があるもの。
 - 3 : 利用分散化のために、自然環境への悪影響を与えない範囲内で、利用環境の改善や利用の誘導を図る必要があるもの。
- ロ : 現状の「自然体験タイプ」と理想の「自然体験タイプ」との間に差異がある。
- 1 : 今後、利用の抑制（集中の分散化）、或いは自然環境への影響を緩和するための措置を図る必要があるもの。

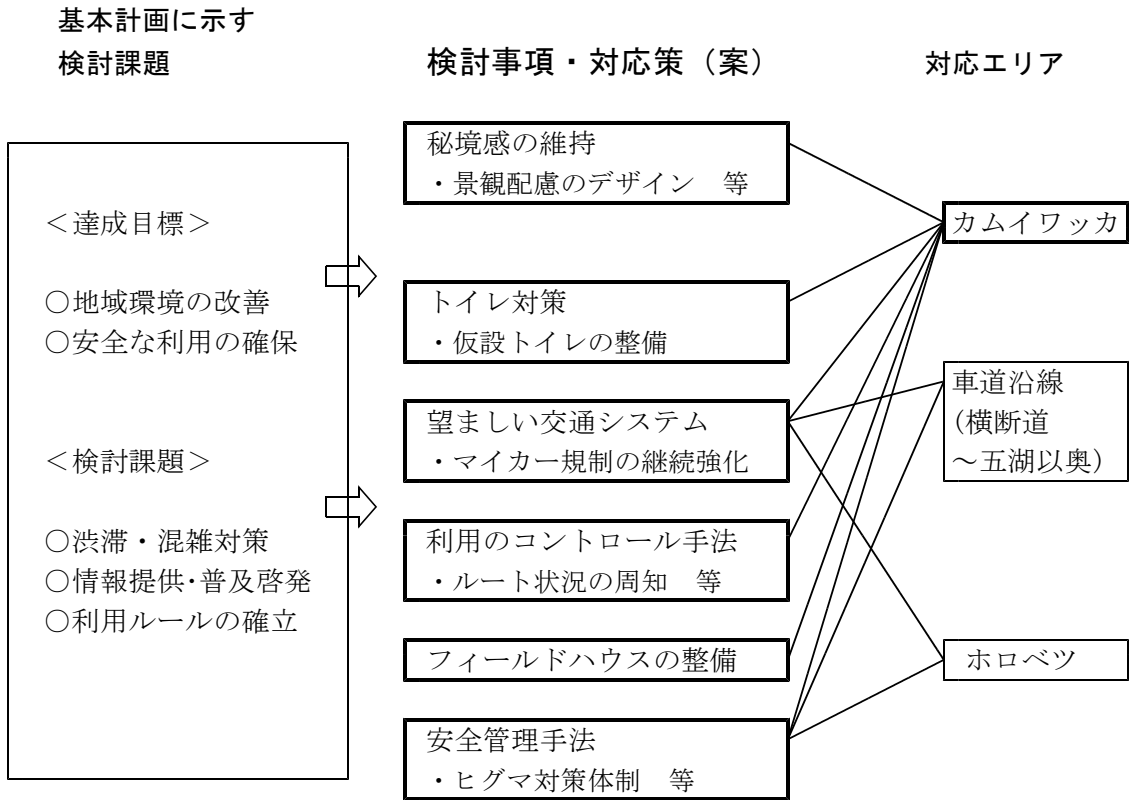
Ⅲ 優先検討グループ・エリアの検討事項、対応策等

優先的に検討を行う4グループ・エリアの検討課題・問題点及び検討事項・対応策等は以下のように整理される。

グループ：ア【知床五湖園地・歩道】、[ホロボツ園地]、[車道沿線（横断道～五湖）]



グループ：イ【カムイワッカ】、[車道沿線（五湖以奥）]
 （6 ホロベツ園地）（8 車道沿線（横断道～五湖以奥））

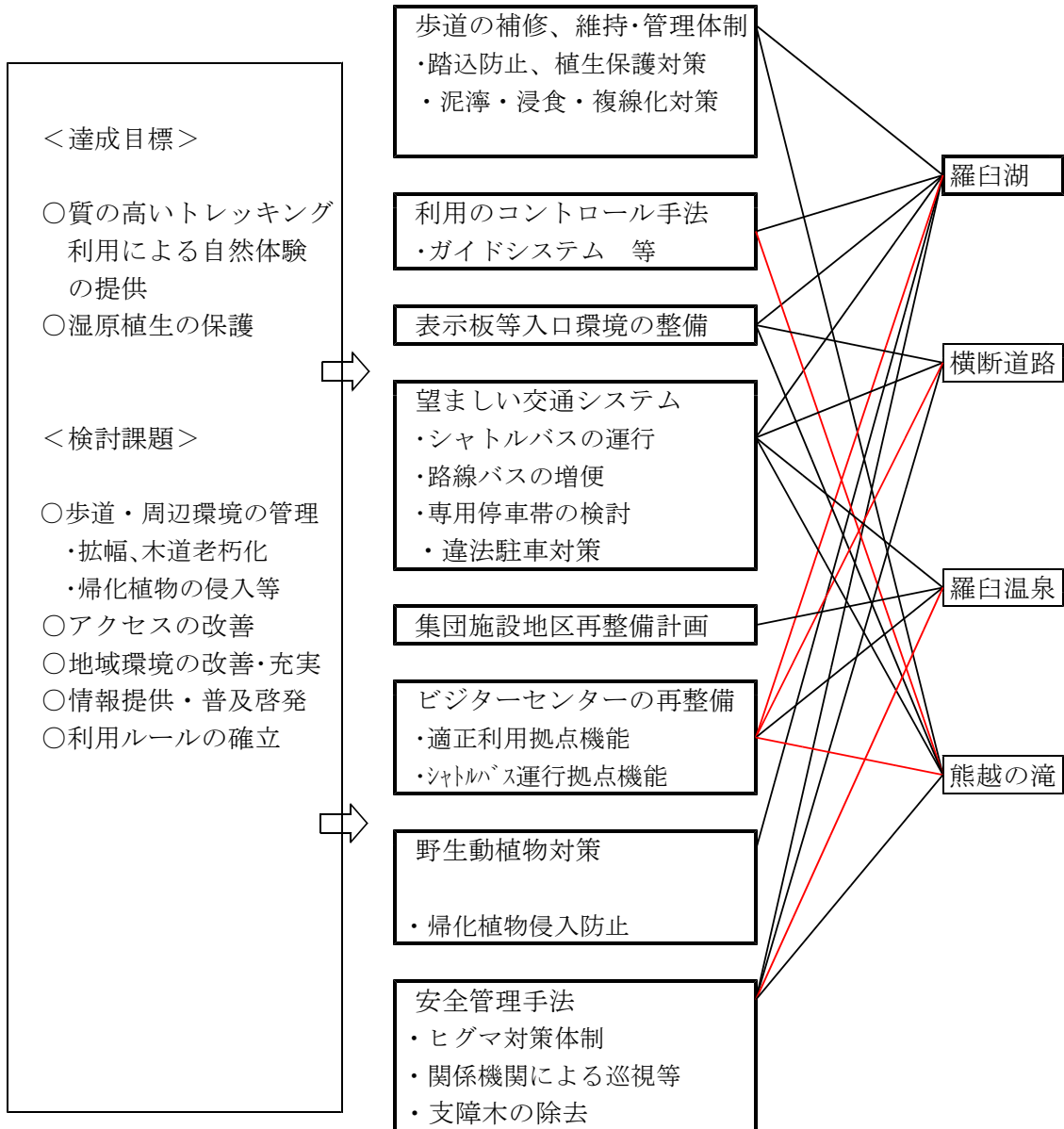


グループ：ウ【羅臼湖】、[知床横断道路]、[羅臼温泉集团施設地区]、[熊越の滝]

基本計画に示す
検討課題

検討事項・対応策（案）

対応エリア



グループ：エ【知床連山縦走線】、[岩尾別温泉～羅臼岳]、「羅臼温泉～羅臼岳」
[カムイワッカ～硫黄山]、「町道岩尾別温泉道路」

基本計画に示す
検討課題

検討事項・対応策（案）

対応エリア

